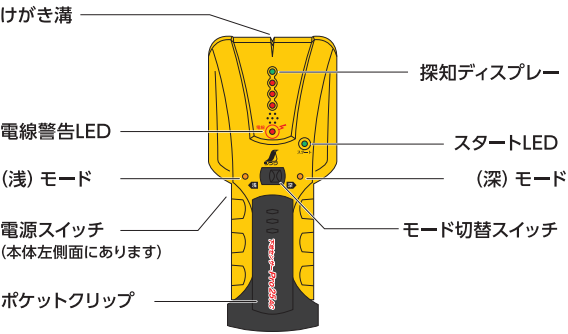
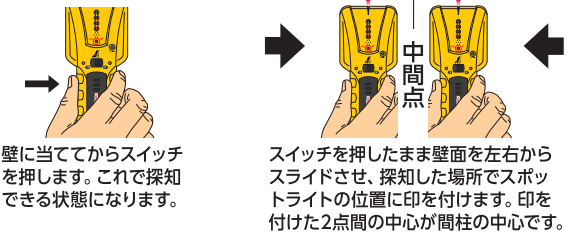


■各部の名称



■使用方法(概略)



注意

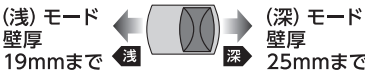
探知物検出深度には壁の厚み・壁密度・壁湿度の三つの主要素が関係してきます。次のような高密度、密度が一定でない材質、凹凸のある材質を通しての探知はできませんのでご注意ください。

- ・金属壁・コンクリート・ラス・セラミック床タイル・レンガ
- ・カーペット等の敷物・金属繊維を含む壁紙
- ・ペンキ塗りたてや壁紙貼りたてで壁が濡れている場合…など。

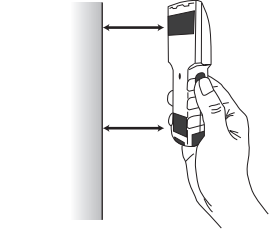
また、偶然柱の真上からスライドさせると探知できません。

■使用方法

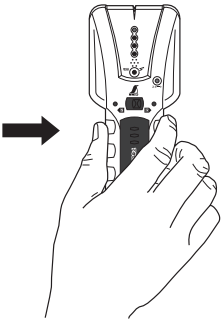
- ① 中央のモード切替スイッチは通常では浅モードで使います。壁が厚く探知しにくい場合深モードに切り替えてください。



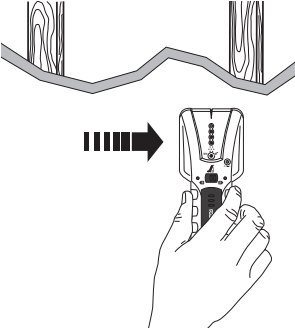
本体裏面を壁にピッタリと当てます。この時はスイッチは押しません。



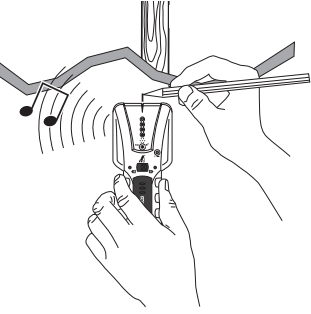
- ② 壁に付けてから左横にあるスイッチを押し、そのまま壁から離さずに右方向へスライドさせます。※壁に付ける力は均一に。



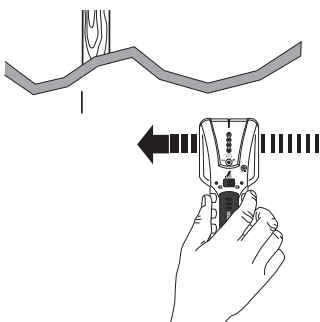
- ③ 壁の水平方向右側へゆっくりとスライドさせます。間柱等に近づくにつれ、赤いLEDランプが下から順に点灯します。



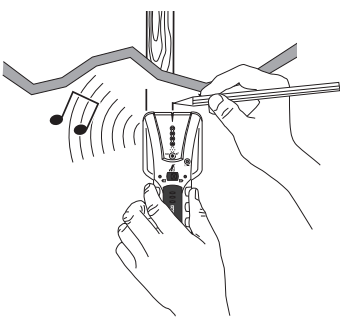
- ④ 一番上の緑のLEDランプとスポットライトが点灯し、ブザー音の鳴った所でエンピツで薄く印を付けます。



- ⑤ 今度は逆側から、②と同じように左方向へスライドさせます。



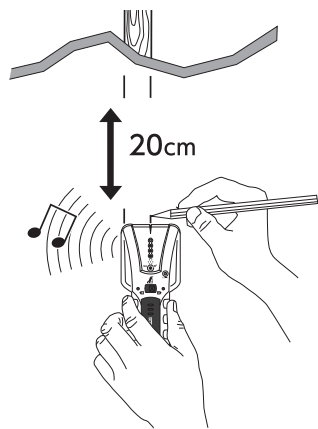
- ⑥ 逆方向から探知して、一番上の緑のLEDランプとスポットライトが点灯し、ブザー音の鳴った所でエンピツで薄く印を付けます。



- ⑦ 2つの印の中心が柱等の探知物の中心という事になります。しかし、柱だけでなく電線ボックス等の別の物を探知する場合があります。探知した物が縦方向の柱かどうか確認する為に、⑥で付けた2つの印から約20cm下方でも①から⑥の方法で探知して、同じように反応する事を確認してから釘打ち等の作業をしてください。

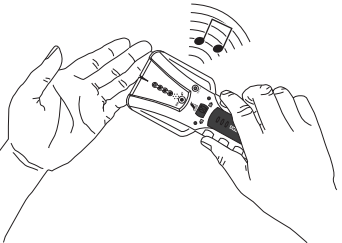
注意

- 柱がイメージできない時は、加工作業を行なわないでください。
- この製品では探知物の幅までは探知できません。あくまで間柱等の中心のみを探知します。



■作動確認

反応に疑問を感じた時は、空中でスイッチを入れ、手を裏面に当てます。この時にLEDランプが点灯すれば反応は正常です。



■トラブルと対策

状 況	考えられる原因	解 決 法
LEDが点滅を始め、ピーツという音が連続的に鳴る。	●壁内の密度の高い位置や柱等の真上から探知を開始した。 ●壁にピッタリ付いていない。 ●探知中に本体がぶれたり、壁から離れたりした。	●探知開始場所を左右どちらかに数cm移動させ、スイッチを押し直してもう一度探知を開始する。 ●表面の荒い壁などには厚紙などを当て、その上を本体が滑らかにスライドするようにする。 ●本体は必ず柱や探知物と平行になるように持ち、それらに直交するように移動する。
LEDが点灯する所が多過ぎる。	●間柱以外の物を検出している。 ●電気配線や金属製・プラスチック製の管が壁の裏面かその近くにある。 ●探知している壁材の密度が均一でない。主な原因として湿気・虫食い・気泡等が考えられる。	●これらが存在する可能性がある場合、壁・床・天井への釘打ち・切断・穴あけ等の作業は中止する。 ●探知した物が縦方向の柱かどうかを確認するには、印を付けた場所の上下20cmの所で同じように反応するか確認する。

■壁材と探知物及び探知距離の早見表

探知物	壁材	ベニヤ板	プラスチック	石膏ボード	ガラス	ALC板	コンクリート	モルタル	金属
	鉄	スチール	アルミ	他					
プラスチック	金属・木材		○ 約25mm			金属のみ探知可能	○ 約20mm		×

※数字は壁材から探知物まで探知できる概略の値です。
※ALC板とは、軽量気泡コンクリートの略です。
この製品は壁の材質や構造によっては、正確に探知できない場合がありますので、ご承知おください。

注意

- 電気配線の近くの釘打ち・切断・穴あけ等の作業の際には、必ず電源(ブレーカー)を切ってから作業してください。
- 壁裏の間柱を探知して釘を打つ場合、掛けたり吊るしたりする物の重量に耐えられるかどうかを、事前によくご確認ください。

注意

- 落下等の強い衝撃を与えますと故障しますのでご注意ください。
- 使用しない時は電池を外して保管してください。入れっぱなしにしていると、液漏れる事があります。

